

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 萩ヶ丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

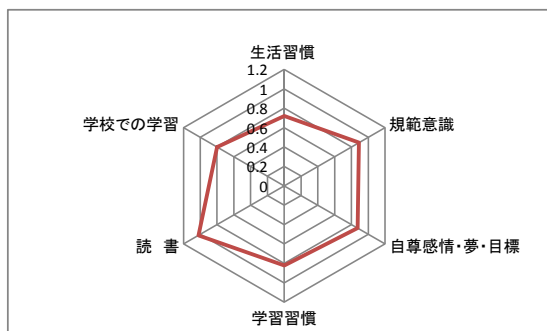
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を下回ったが、全国平均正答率を上回った項目が、15問中7問あった。選択式の問題形式に意欲的に取り組む姿勢がある。 それぞれの学年で学んだ内容を以降の学年でも常に学習や生活に活用し、基礎的な知識として定着させていくことが必要。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて、その場面に合った言葉を選択する。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現として適切なものを選択する。 ローマ字で表記されたものを正しく読む。 平仮名で表記されたものをローマ字で書く。 	
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を下回ったが、全国平均正答率を上回った項目が、10問中3問あった。選択式の問題形式に意欲的に取り組む姿勢がある。 記述式の問題形式の平均正答率が全国平均正答率を下回っていた。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、複数の本や文章を選んで読む。 グラフを基に、分かったことを明確に書く。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む。 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する。 	
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を下回ったが、無回答率が昨年よりもかなり少なくなった。選択式や短答式の問題を解こうとする意欲が見られる。全国平均正答率を上回った項目が16問中6問あった。割合の問題の平均正答率が低かった。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 二つの数の大小関係を表す不等号を書く。 乗法が整数である場合の分数の乗法の計算をし、約分することができる。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 1をこえる割合を百分率で表す場面において、基準値と比較量の関係を理解する。 	
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国的には、全国平均正答率を下回った。 記述式の平均正答率が低かった。式の中の数字が何を表しているのか言葉で書いたり、数や演算の表す内容に着目して式の意味を説明したりする力に課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 示された条件を基に他の正方形について検討し、同じきまりが成り立つか調べる問題は正答率が高い。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く問題は正答率が低い。 	

4. 学校での学習活動, 家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 毎日同じ時刻に寝ている児童の割合が全国よりかなり下回っていた。また、同じ時刻に起きていた児童の割合も全国より下回っていた。原因として、テレビやゲーム等への接触時間にあると考えられる。(テレビやゲームへの接触時間が3時間以上の割合が全国と比較してもかなり上回っていた。)生活習慣の見直しが必要である。 将来の夢や目標をもつ児童の割合が、全国と比べて下回っていた。また、自分にはよいところがあると答えた児童の割合も全国より下回っていた。小さな成功体験の積み重ねやよさを見付け合い、認め合う経験を増やしていく必要がある。 読書がすきと回答した児童の割合が全国よりやや上回った。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・国語科の「話すこと・聞くこと」領域は全国平均正答率を上回っていた。これは、よりよいコミュニケーション能力を身に付けるために、本校が研究を進めてきた成果と考えられる。しかし、発表するときに、うまく伝わるよう話の組み立てを工夫したり、話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりするまでには至っていない。そこで、本年度は、特に国語科教育の「話すこと・聞くこと」単元を通して研究を進める。単元構成の工夫をしたり、交流し合う視点を全校統一のものにしたり、評価の工夫を行ったりする。第1学年から第6学年までを系統的に捉え、各学年の段階で身に付けておくべき力を確実に定着できるようにする。10月12日、10月26日、11月9日に授業を伴った主題研究を設定し、互いの考えや立場などを尊重しながら互いに協力し合って話し合えるようになる授業の在り方を全職員で研修する。

・少人数指導教員と連携を図り、年間計画に従って算数の授業を学級分割で行ったり、TT形式で行ったりして、より指導が行き届いた分かりやすい授業に取り組む。

・月曜日は音読、火曜日は国語、水曜日は読書、木曜日、金曜日は計算というように、朝自習で取り組む内容を学校全体で統一し、確実に実施することで、基礎学力の定着を図る。特に音読は、月曜日に全校放送で一斉音読に取り組む。音読の楽しさを味あわせるとともに、みんなで一つの目標の向かって取り組む楽しさも味あわせたい。

・木曜日と金曜日の計算タイム(朝自習)が確実に実施できるように、少人数教員の協力の下、アシストシートや教材の附属のワークシート等を活用し、プリントを必ず用意する。10分間で答えあわせまでができる無理のない問題数のものを選択する。

・読書への関心を更に深めるために、図書委員会を中心に校内読書週間を設定する。(10月27日～11月9日)読書週間中は朝自習を全校10分間読書としたり、学校図書館職員によるブックトーク、図書委員による絵本の読み聞かせや本の紹介、図書クイズの時間を設定する。さらに、全児童で読書感想画に取り組み、読書意欲を高める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・中学校区全体が家庭学習に取り組めるために、大里東小学校と戸ノ上中学校と連携して「スタディーウィーク」を年間5回設定する。(3回は実施済み:第4回目11/18～11/24 第5回目2/10～2/16の予定)取組の様子や結果は、学校便りで配信し、保護者への家庭学習に対する関心を少しでも高めてもらう。

・毎朝8時26分からは「萩小ストレッチタイム」とし、保健委員会作成のCDを全校放送する。静かな音楽とともにストレッチをすることで、体をほぐし、姿勢保持を意識させるようにする。体育委員会とも協力し、児童同士の気付きや声かけから生活態度を見直すきっかけにする。

・1学期末に実施した生活アンケートの結果を学校便りで公表し、各家庭で生活習慣を見直すきっかけを設けられるようにする。

・12月と1月の「萩ヶ丘小学校生活のきまり」を配布し、長期休暇期間中の生活の仕方を共通理解できるようにする。